

平成29年度 学校評価状況の分析・改善 (12月実施) 白山市立鳥越中学校

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

[A…よくあてはまる、B…あてはまる、C…あてはまらない、D…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

重点	経営ビジョン	具体的な取組(重点目標)	項	評価の観点	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
1 学校経営の充実	学校評価を生かした 学校経営の充実	【1. 教育目標・めざす生徒像】 (豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成) ○4つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め合う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさとに誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ○4つの生徒像の実現に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	①	【成果指標】〔生徒〕 学校へ行くのが楽しい。	A-90% B-80% C-70%	92% A	88% B	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「学校に行くのが楽しい」という項目では生徒、保護者、教職員いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。一方、「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が、生徒は8%で、人数に換算すると6～7人である。この少数派の生徒たちがどのような場面で「楽しくない」と感じているのか観察していく必要がある。「困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる」という生徒の項目においては72%となり、目標としていた80%に到達していない。しかしそれ以上に「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が合わせて28%いるということを憂慮している。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みに気づいて声をかけたりするなど、いざというときに相談できる関係を教師自身が作っていくことが大切である。また、どの教職員も相談に関わることができると設定や相談体制の見直しを行うことが考えられる。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 数値目標は変更しない。「困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる」の項目で、生徒の肯定的な評価が80%以上になるよう具体的に取り組んでいく。	(前期) ・週1回のスクールカウンセラー来校の機会をとりえて一人一人にきめ細やかな指導をお願いしたい。 ・生徒の回答に無回答がないことは良い。 ・学校に相談できる教師が一人でもいるということが大切である。子どもから声をかけられたら忙しくてもしつかり話を聞いてやるなど、日頃の人間関係を築いていくよう努力をお願いしたい。	【評価を終えて】 ・①項「学校へ行くのが楽しい」では、7月より生徒4%、保護者9%、下がっている。この結果を真摯に受け止め、「当てはまらない」と回答した10人の生徒に焦点を当てて、丁寧な声かけ、指導を行うとともに、生徒が主体的・協働的に行える取組を構築する必要がある。 ・②項「困った時に相談できる先生がいる」では、7月より生徒、保護者、教師とともに、評価が上がっている。目標の80%に達していないが、これからも一人一人の生徒を大切にしながら、いつでも相談できる体制を整えていきたい。 ・③項「先生たちは生徒のことを考えてくれている」では、7月より7%上がり89%となった。これは概ね満足できる結果であると考え。今後は、11%の生徒の「当てはまらない」に焦点をあて、生徒の思いや立場も考えながら、その生徒に応じた手立てを講じていきたい。 ・前期に引き続き、学校全体で生徒一人一人の良さ、課題をしっかりと理解するとともに、組織としての共通実践と各教員の強みを生かした取組を進め、生徒、保護者との信頼関係を深めていきたい。 【求める生徒の姿】 ・豊かな心と向上心にあふれる生徒 【具体的な取組】 ・「4つの生徒像」の実現に向けて、生徒の現状に応じた計画的・具体的な取組、組織としての実践 ・教職員が共通認識、共通行動するための情報共有の場として、主任会議、職員会議の充実 ・「開かれた学校」を目指し、保護者・地域への生徒の様子や学校方針の発信
			1	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、学校へ行くのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	93% A	84% B			
			1	【成果指標】〔教師〕 生徒は、学校に来るのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	100% A	86% B			
			②	【成果指標】〔生徒〕 困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	72% C	79% C			
			②	【成果指標】〔保護者〕 親が困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	82% B	86% B			
			2	【成果指標】〔教師〕 生徒は困ったときに相談できる(できそうな)教職員がいる。	A-90% B-80% C-70%	86% B	100% A			
			③	【成果指標】〔生徒〕 先生たちは生徒のことを考えてくれている。	A-90% B-80% C-70%	82% B	89% B			
			④	【成果指標】〔保護者〕 教職員は生徒のことを考えてくれている。	A-90% B-80% C-70%	90% A	89% B			
			3	【成果指標】〔教師〕 教職員は生徒のことを考えている。	A-90% B-80% C-70%	86% B	100% A			
			7	【成果指標】〔教師〕 主任を中心に組織的に学校が動いている。	A-90% B-80% C-70%	86% B	86% B			
2 確かな学力の形成	自ら進んで学習する 生徒の育成 「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・授業で学習内容の見直しを持ち、振り返ったりすることができる生徒 ・授業に意欲的に取り組んでいる生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・見直し・振り返る学習活動の研究 ・校内研究授業の充実	⑤	【成果指標】〔生徒〕 授業で学習内容の見直しを持ち、振り返ったりすることができる。	A-90% B-85% C-80%	91% A	92% A	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「見直し・振り返り」の項目では、「あてはまる・よくあてはまる」と答えた生徒の割合が11%増加した。「意欲的な取り組み」の項目では、前回と同じ割合であった。 【7月評価時点での成果と課題】 各教科において単元見直し表を活用した、見直し・振り返りのある授業に取り組んだ成果と言える。しかしまだ10%前後の生徒は、見直しを持ち、意欲的に取り組んだりすることができていない。学習意欲につながるよう、個への手立てを行っていく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 全教職員が組織を意識し行動することが必要である。	(前期) ・「習うのは生徒、みずから学ぶのが学生」という言葉がある。生徒たちには自分から進んで学びたくなるような授業の工夫や話をしてほしい。 (後期) ・教師の意識が変わることで生徒の意欲が向上する。今後は挙手発言できるような授業づくりにも取り組んでいくと良い。	
			12	【成果指標】〔教師〕 生徒が学習内容の見直しを持ち、振り返ったりすることができるよう取り組んでいる。	A-90% B-85% C-80%	86% B	100% A			
			⑥	【成果指標】〔生徒〕 授業に意欲的に取り組んでいる。	A-90% B-85% C-80%	88% B	88% B			
			6	【成果指標】〔教師〕 生徒は意欲的に授業に取り組んでいる。	A-90% B-85% C-80%	86% B	100% A			

重点	経営ビジョン	具体的な取組（重点目標）	項	評価の観点	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
2	確かな学力の形成	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	⑧	【成果指標】〔生徒〕 家で勉強している。	A-95% B-85% C-75%	97%	93%	<p>○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒が9割を超えた。今までにない高い数値となった。また「あてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた生徒は3%(3名)であり、2年生で2人・3年生で1人という結果となった。</p> <p>【7月評価時点での成果と課題】 高い数値ではあるが、学習内容はどうかを考えると疑問が残る。今後も、家庭学習ノートの推進を進める一方で、基礎的な学習の方法を教えるなど個別の指導を行っていききたい。</p> <p>○目標・計画の再設定(Action) 数値目標は変更せず、前期に立てた計画通りに進めながら、後半は「よくあてはまる」の数値の変容に注目し、家庭学習の定着が不十分な生徒に対しては教科ごとの取組を充実させていく。</p>	<p>(前期) ・「勉強している」の定義を具体的に(1時間以上勉強している、など)示してはどうか。 ・家庭学習ノートの取組は生徒の意識を高める上で効果が高い。一方で、小学校時には非常に多かった読書量が全体として少なくなってきた。読書の楽しさをもっと発信していただいたい。 (後期) ・小中が共通して家庭学習週間を持つことで小学校でも意欲を向上させることができる。継続していききたい。 ・段位認定など子どもの動機づけに有効な方法である。</p>	<p>【評価を終えて】 昨年度74%の達成率に比べると、19%の上昇、本年度7月の結果と比べると4%の下降が見られる。今年度もガリガリノートの段位認定という形で、頑張っている生徒を「認め・褒める」機会を作ってきた。その成果が確実に出てきていると感じる。来年度に向けて、さらに一人一人の学習到達状況を確認し、意欲を引き出すための方策を探りながら取組を継続していかねばならない。</p> <p>【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組める生徒</p> <p>【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組</p>
			⑨	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、家で勉強している。	A-85% B-75% C-65%	75%	84%			
			14	【成果指標】〔教師〕 家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A-90% B-80% C-70%	100%	100%			
3	豊かな心の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「徳」	⑫	【成果指標】〔生徒〕 友達の良い行いや長所を見つけられる生徒	A-95% B-85% C-75%	99%	95%	<p>○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。しかし、「思いやりの心」の項目に関しては、9%の生徒は「あてはまらない」と答えている。</p> <p>【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士が良いところを見つけ発表し合う「とりごえもんの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。しかし、まだ「あてはまらない」と答えている生徒がいる。よいところ探し形だけのものや義務ではなく、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるような教育活動を行っていくことが課題である。</p> <p>○目標・計画の再設定(Action) 数値目標は変更せず、取組の定着、深化を図っていききたい。「よくあてはまる」の数値に注目し、より深い取組の内容になっていくように「とりごえもんの羽」の工夫をしていく。</p>	<p>(前期) ・子ども達の活動が通信等を通して保護者によく伝わっていることがわかる。 ・初めて会った人に対しても長所や良い行いを見つけられるような習慣を身に付けさせたい。学校全体でそのような活動を取り入れてはどうか。 ほめ言葉を受け取る中で自己肯定感が上がっていく。</p> <p>(後期) ・お互いの良い行いを見つけたら意識づけのためには、中学校で日常的に行っている「とりごえもんの羽」は良いことである。 ・今後は友達の行動に対して自分の考えを書くなど、内容の深化を目指してほしい。</p>	<p>【評価を終えて】 ・7月に比べ生徒の数値はわずかに下がっているが、なお満足できる結果となっている。日々の活動は、学級リーダーや生徒会執行部が中心となって自主的に行っている。今後はさらに意識を高めるとともに、一人一人が友達の行動をふり返る行動を通して、自分の良さを認められるような内容の工夫に力を入れていきたい。</p> <p>【求める生徒の姿】 ・互いのよい行いや長所を見つめることができる生徒</p> <p>【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組</p>
			⑨	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、友達の良い行いや長所を見つけられる。	A-90% B-80% C-70%	92%	93%			
			22	【成果指標】〔教師〕 友達の良い行いや長所を見つめるための指導を行った。	A-90% B-80% C-70%	83%	86%			
			⑬	【成果指標】〔生徒〕 友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-95% B-85% C-75%	92%	89%			
			⑩	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-90% B-80% C-70%	87%	92%			
			24	【成果指標】〔教師〕 道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育てられている。	A-95% B-85% C-75%	100%	100%			
4	健全な体の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「体」	⑮	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	A-65% B-55% C-45%	58(98)	49(96)	<p>○7月評価(Check) 【評価・分析】 全校生徒の97%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、自律清掃により心が磨かれていると感じていることがわかる。全ての学年で「あてはまる」をつける生徒の割合が増加しており、日頃の教育活動の成果があると思われる。</p> <p>【7月評価時点での成果と課題】 「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が昨年度に比べ減少したものの、2%の生徒が「あてはまらない」と答えている。さらに自律清掃を深めていきたい。そのための工夫として、映像学習や生徒同士の話し合い、振り返りの場を設定を検討する。</p> <p>○目標・計画の再設定(Action) 数値目標は変更せず、「あてはまる」と答える生徒がさらに増えるように映像資料などをもちいた取組をしていきたい。</p>	<p>(前期) ・これまでの取組を継続してほしい。</p> <p>(後期) ・あいさつは学校内だけでなく、形式的であっても大きな声であいさつすることを励行してほしい。 ・小中で共通して取り組めると良い。 ・地域の人に対してはとても良いあいさつをする生徒もいる。今後も継続してほしい。</p>	<p>【評価を終えて】 ・やや数値は下がっているが、「当てはまる」以上の数値は高さを維持している。何事にも深まりは大事であり、目標に向かって共通理解、共通実践していく丁寧な姿勢を今後も継続していく必要がある。</p> <p>【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作によるあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒</p> <p>【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行</p>
			31	【成果指標】〔教師〕 自律清掃(無言、見つけ)に取り組むための指導ができた。	A-90% B-80% C-70%	86%	86%			
5	開かれた学校	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成 「家庭・地域連携」	⑲	【成果指標】〔生徒〕 地域に愛着や誇りをもっている。	A-60% B-50% C-40%	63(91)	54(91)	<p>○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒(A63%)、教師(100%)はとても高い評価である。これは、城山旧道整備、花いっぱい運動、「私の好きなふるさと」掲示等、生徒が主体的に活動したこと、教職員も生徒と共に地域への貢献活動をしたことによる。生徒の掲示には愛郷心あふれるものも多く見られた。保護者評価においては、昨年度の91%を下回っているものの、83%と概ね満足のいく数値である。</p> <p>【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校である。生徒の愛郷心をさらに高められるように、今後も継続して地域の活動に参加したり、行事や授業等での地域人材の活用を進めたりして地域や家庭に対して、生徒の良さを積極的に発信していくことが必要である。</p> <p>○目標・計画の再設定(Action) 数値目標は変更しない。保護者の肯定的評価が上がるよう生徒の良さを伝え、連携を図っていく。</p>	<p>(前期) ・多くの生徒が肯定的に考える一方、9%の生徒が「あてはまらない」と答えている。将来的に住み続けたいと思うような町づくりをする必要がある。 ・人と交わることに慣れておらず、高校に行くと順応できなくなる子がいると聞く。多様な人間関係の中でたくましく柔軟に生きていくメンタルを育てていくことが大切である。 (後期) ・小学校の運動会の手伝いを中学生がしてくれるのは非常に助かる。 ・旧道整備など目的意識を持って取り組んでもらうために、公民館としてはその意義を宣揚していきたい。</p>	<p>【評価を終えて】 ・花いっぱい運動のふり返りを写真と文章でまとめて掲示したり、「ワカモノの会」の講演を開いたりするなど、ふるさととの良さに触れる機会を持った。「よくあてはまる」生徒の割合が9%下がったが、全体としては91%の生徒が「あてはまる」以上となり、概ね高い数値である。 ・保護者評価は6%高くなった。「花いっぱい運動」による花壇の様子や生徒の良い姿を校内掲示等で保護者や地域に発信してきたことによると考える。</p> <p>【求める生徒の姿】 ・地域に誇りを持つ生徒</p> <p>【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進 ・積極的な地域行事への参加</p>
			⑳	【成果指標】〔保護者〕 子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A-80% B-70% C-60%	83%	89%			
			37	【成果指標】〔教師〕 地域に愛着や誇りを持つよう取り組んだ。	A-90% B-80% C-70%	100%	100%			